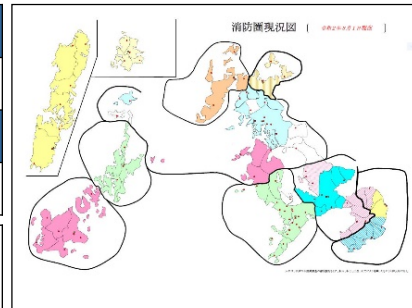


1 モデル事業対象地域の現況

対象消防本部（構成市町村）	圏域人口
10消防本部（7市、1町、2一部事務組合） ①長崎市、②佐世保市、③平戸市、④松浦市、⑤五島市、⑥壱岐市、⑦対馬市、 ⑧新上五島町、⑨県央地域広域市町村圏組合、⑩島原地域広域市町村圏組合	1,377,187人
	圏域面積
	4,130.89km ²



圏域の特徴

管轄人口では、長崎市消防局が、501,860人と最も多く、離島には4つの消防本部があり、115,605人の人口を管轄している。全ての消防本部において、人口減少が進んでいる。

2 現状・課題、モデル事業の内容

現状・課題

人口減少が進む長崎県においては、「離島と本土の広域化にメリットが見出しにくい」という懸念に対し、広域化等の有効性を明らかにしつつ、将来を見据えた持続可能な消防体制の構築を検討していく必要がある。

モデル事業の内容

- 先進事例や先端技術情報の収集やアンケート調査などにより調査研究、方策を整理。
- ・ 消防需要と今後の動向を把握、将来における課題を整理
 - ・ 離島において、今後も単独で消防体制を維持していく対策を検討（連携・協力、新しい技術の活用、地域防災力の掘り起こし 等）
 - ・ 広域化の検討（広域化（全県一区）の組織体制のイメージ、広域化の効果及び課題 等）
 - ・ 離島の消防体制の維持強化の今後の進め方
- 事業期間：令和2年7月～令和3年2月 ○事業費：4,000千円

3 成果及び今後の展望

成果

- 1 将来を見据えた持続可能な消防体制の確保
 - ・ 離島消防本部にあっては、今後人口減少がさらに進み、**現消防体制の維持がますます困難**になると推測
 - ・ 連携・協力や新しい技術などだけでは、持続可能な消防体制を維持するのは困難
 - ・ 人口減少が進んでいることを踏まえ、**組織の拡大(広域化)**によるスケールメリットが**必要不可欠**
- 2 広域化による離島及び本土のメリット

離島のメリット

- ・ 必要な人材確保や高機能な資機材、システム導入
- ・ 県内相互応援に比べ、迅速な応援部隊の派遣が可能
- ・ 今後、Society5.0で推進のAIを活用した予測技術の発展により台風到来に備えた応援部隊等の配置が可能。

本土のメリット

- ・ 人員配置の効率化により現場や専門分野への再配置
- ・ 人事異動による組織の活性化、適材適所の異動
- ・ 資機材や備品の購入数増加による経費削減

今後の展望

- 広域化は短時間での実現が困難であることを踏まえ、次の事項を早急に検討する。

【主な検討事項】

- ・ 消防団、自主防災組織との連携強化
- ・ 業務能力向上を目的としたICTの活用
- ・ 離島への大規模応援派遣訓練の実施
- ・ 離島への移動方法の検討
- ・ 離島への事前配置

⇒ **令和3年度より上記事項の検討を開始**

【連絡先】長崎県 消防保安室 095-895-2146